



申6号2024賃金引上げ、会社回答を受けてのポイント！

◇回答時におけるジェイアールバス関東会社の経営状況

- ・1月末時点での1億1100万円の黒字。2月収支も確定ではなかったものの、累計ではここに更に積みあがったものと説明を受け、3月の動向に関しても、京阪神の売れ進み好調、旺盛な河口湖・TDR線のインバウンド需要、成田空港線やかしま号といった多頻度近郊路線の乗車率向上、通年での累積黒字をより確実なものとしてきている。→赤字からの脱却、体力としては十分に成長！

◇回答を受けての組合主張

- ・ベアの回答額、契約社員の時給・日給の改定。それらは社会情勢に向けた企業努力というものを感じられる。しかしながら首都圏に構えるバス会社としては低い回答だ。今般の経営体力を鑑みても低いという認識。賃金とは労働力の再生産費であり、衣食住、次世代の育成、自己研鑽など、社員の生活と成長には欠かせないものだ。
- ・今だ物価上昇の傾向もある。光熱費や金利に関しても上昇の傾向と報道などでも取り立たされている。企業として更なる努力をしてもらわないと、社員の生活が困窮していく世の中になっている。我々としては、そこを一番危惧している。
- ・人材流出が進んでしまうのではないのか危惧する。ここ数年賃上げを実施している同業他社の初任給が当社の勤続10年以内の社員の基本給と殆ど変わりのないくらいまでの水準になっている。

◇組合主張に対する会社見解

- ・賃上げ以外にも、提案事項にもあるように賃金制度の改善はおこなっている。どれか1つの項目だけに特化して改善するのではなく、総額人件費としての考えで待遇改善をおこなう。原資についてはベア2000円の実施で1200万円。先日の提案事項含めると単年で約8000万円弱の人件費持ち出し増加となる。賃上げのパーセンテージについては定期昇給も含め2.68%となる。
- ・これを以って全てではない。賃金改善は更に進めていきたい考えだ。若年層への賃金に関しても認識はある。ただ本年度の4月までの足固めとしてこれが限界というところ。引き続き職場への理解を促し丁寧に説明していきたい。労働力の再生産費というものも否定しない。賃金で子育て、娯楽、自身の研鑽に活用するということは当然であり、豊かな生活の為には必要。
- ・人材確保に向けた賃上げが必須であるという認識であり、出来ない企業は淘汰されていくという認識だが、出せる範囲での賃上げをおこなうしかない。今、爆発的に支給し、この先の経営が傾くということだけは避けたい。
- ・現在の経営を前向きに捉えていく。もうコロナのせいにはできない。時に厳しい場面があるが、それを責任転嫁せず着実に経営の足固めをしていく。

今一度賃金の本質について全組合員と議論し、労働の価値に見合う賃金を要求していこう！